

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより  
逢いてエ

# 雑報 縄文

いろんな考えがあるから面白い  
いろんな人がいるから楽しい

No. 715

2025年9月19日

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

も・く・じ

- |                   | ページ |
|-------------------|-----|
| ● 『バビロンの豆腐屋になつた』2 |     |
| ● 友魂 ②            | 8   |
| ● 米の値段について        | 12  |
| ● 6便りから           | 16  |
| ● け・い・じ・ば・ん       | 18  |
| ● 山仕事(9月、大平)      | 20  |
| ● 「地域づくり交流会 ざれから」 | 21  |
| ● 壊された朝鮮人追悼碑      | 23  |
| ● 戦争を選ばない民主主義を    | 26  |
| ※ 掲示板は、18ページに。    |     |



降りそうなお天なりも  
大根蒔いそぬ。 山頭火

泉ゆきを『いはいつも山頭火』  
(日本習字普及協会)

題 字 故 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)  
カ ッ ト 故 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※ この号の切手は、いろいろ。

## 山仕事(9月、大平)

9月2日(火)。暑さが続く中、大平へ。当地では故人の四九日が済むまでは人家に入れないときいたが、正士さんの四九日が終わったこともあって、以前のように家を使わせてもらえることになった。

この日の作業は、家のそばヨザの斜面の草刈り。体調が回復した竹中さんに加わり、男5名でかかる。

作業が終りかけたところで、急斜面を刈る際、草に足をとられ滑落。草刈り機で右足甲を切ってしまった。久米さんが応急手当をし、磐田病院まで運ぶ治療。縫ったが、幸い骨や筋に損傷はなく、出血もわずかで済んだ。

原田さんを一人残し「あらたまの湯」で汗を流す。

原江さんと久米さんが調えてくれた夕食は、

(夕) 冷奴、ナスとジャガイモの炒め煮、レンコンとゴボウの梅干し煮、枝豆、紬文のかしら、生揚げの豚肉巻、豆もやし、漬物。

竹中さんから静岡ビール、青山さんから焼酎をいただき、歓談。

夜、久しぶりの斜面刈りで、0時、2時、4時と3回足がツレ。

9月3日(水)。原田さんは作業休み。山崎さんが代わってリーダーを務め、坂上さん柿園の草刈り。

(昼) 冷やし中華、カボチャ(久米さんが郡山から)煮、ズッキーニのソテー、ピーマンの塩昆布和え、シタケと昆布のうま煮。

午後、ヨサ土部の草刈り。

浜松市天竜二俣の斎藤俊行さんが、自家菜園のナス、キュウリ、オクラ、シシトウなどを頂く。今後、猫の手に参加してくれるよう要請。

夕方、久米さん竹中さんは薄場の葬儀に参加のためいったん戻り、原江、山崎、若林さんとばかりで「あらたまの湯」へ。

夜は、お二人が薄場から戻り、斎藤さん、青山さん、啓史さんに珍しく山本真由美さんも参加して賑やかに食事。

(夕) 焼ナス、オクラのゴマ和え、シシトウとナスの味噌炒め、白身魚とエビのラタトゥイユ、豆もやし、漬物。

斎藤さんからパウンドケーキ、青山さんからマグロ、啓史さんからブドウを頂く。

夜、斎藤さんと母屋で寝る。(翌早朝帰宅)

9月4日(木)。台風15号の接近で雨が降り出す。その中、2ヵ月ぶりに水窪の守屋千づる、熊谷道子、中谷今朝菊さんが「二馬」を持参で来てくれた。

作業は無しで早めに「敷地」を頂く。

(昼) 海鮮ちらし(マグロ、すき身、エビ、イカ、サーモン、大葉にキュウリ)、冷たいおでん(大根、シタケ、コンニャク、卵、紀文の竹輪)、キュウリとミョウガの酢の物、ポテトサラダ、黒ウリ塩もみ、ナスとミョウガのおからみ、醤油味。デザートは、啓史さんのブドウと竹中さんのリンゴ。

海から遠いのに鮮度の良い海産物、冷たいおでんは熊谷道子さんが大根を米ぬかで2日茹でてあく抜きし、出来たおでんを冷蔵庫で冷やしてくれたとのこと。

そのほか、豊かな夏野菜も盛沢山だった。

昼食後、水窪の皆さんとお別れし、原田さんは竹中さんに敷地駅まで送ってもらい帰宅。残る5名は敷地駅で菅原敬一さんをお迎えし、久米さんの車と若林さんの車に分乗して、豊田市足助町の「地域づくり交流会 ざれから」に向けて出発。